

令和6年度
学校関係者評価 報告書

令和6年6月27日

学校関係者評価委員会

ホンダ テクニカル カレッジ 関東

1. はじめに

学校関係者評価とは、学校の自己評価の客観性・透明性を高め、学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ることを目的としています。具体的には、学校が策定した重点目標、計画の実施について自己評価を行い、その結果を踏まえ、今後の取組方針などについて、学校が選定した学校関係者評価委員に説明し、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、今後の方向性等に対する助言、評価等を頂くことで学校改善につなげることを目指しています。

学校法人ホンダ学園 ホンダ テクニカル カレッジ 関東（以下、ホンダ学園 関東校）においては、平成 26 年 10 月に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を発足させ、令和 6 年度は、学校関係者評価委員会を 2 回開催、教育編成委員会を 2 回開催（第 2 回は 令和 7 年度評価へ向けて 12 月開催予定）する中で、委員の皆様から幅広い意見、助言、評価を頂きました。その結果を本報告書にまとめ、今後の教育内容や学校運営等の改善を図ってまいります。

2. 令和 6 年度 学校関係者評価委員会 開催概要

・日時：令和 6 年 5 月 20 日（第 1 回委員会） 令和 6 年 6 月 21 日（第 2 回委員会）

・場所：ホンダ学園 関東校 第 1・第 2 会議室

・評価委員 眞鍋 光毅(委員長) 株式会社ホンダモビリティ南関東
上席執行役員 埼玉カンパニー執行責任者
佐藤 雅則 株式会社オートテックジャパン
管理統括部 統括部長 兼 人事部 部長
金子 明 ふじみ野市役所 総合政策部 部長
木村 一年 本田技研工業株式会社 人事統括部 労政部
国内営業人事労政課 主事
鈴木 伸夫 ホンダ学園 関東校 後援会 会長

・学校出席者 勝田 啓輔 ホンダ学園 関東校 校長
達富 由樹 教頭 兼 教務部 部長
横田 俊幸 学務室 室長
茂野 泰士 サービスエンジニア 1 課 課長
中野 健二 サービスエンジニア 2 課 課長 兼 教務部長補佐
沖田 健二 サービスエンジニア 2 課 課長補佐
奥 浩一 開発エンジニア課 課長
嶋 健司 教務部 企画推進グループ

【学校関係者評価委員会 会議次第】

<第1回委員会>

- ・委員紹介
- ・委員長挨拶
- ・校長挨拶
- ・校内視察
- ・令和5年度 学校方針に基づく運営実績報告
- ・質疑応答
- ・令和5年度 自己点検・自己評価報告書の説明
- ・今後の展開について

<第2回委員会>

- ・委員長挨拶
- ・校長挨拶
- ・第1回委員会議事録の確認、共有
- ・各委員からの質問/提言/評価委への回答
- ・令和6年度 活動計画
- ・教育課程編成委員会 状況報告
- ・委員会評価まとめ
- ・質疑応答
- ・今後のスケジュール

3. 令和6年度 教育課程編成委員会 開催概要

- ・日時：令和6年6月17日（第1回委員会）
- ・場所：ホンダ学園 関東校 第1・第2会議室

- | | | |
|--------|------------|----------------------------------|
| ・評価委員 | 岩間 一浩 | 一般社団法人 埼玉県自動車整備振興会
事業教育部 次長 |
| | 富田 英則 | 株式会社ホンダカーズ久喜 代表取締役会長 |
| | 中村 純一 | 株式会社ホンダプロモーション(ホンダカーズ川越)統括部長 |
| | 田中 和弘 | 八千代工業株式会社 執行役員
管理本部副部長 総務部 部長 |
| | 勝田 啓輔（委員長） | ホンダ学園 関東校 校長 |
| ・学校出席者 | 達富 由樹 | 教頭 兼 教務部 部長 |
| | 横田 俊幸 | 学務室 室長 |
| | 茂野 泰士 | サービスエンジニア1課 課長 |
| | 中野 健二 | サービスエンジニア2課 課長 兼 教務部長補佐 |
| | 沖田 健二 | サービスエンジニア2課 課長補佐 |
| | 奥 浩一 | 開発エンジニア課 課長 |
| | 嶋 健司 | 教務部 企画推進グループ |

【教育課程編成委員会 会議次第】

<第1回委員会>

- ・委員紹介
- ・組織変更報告
- ・校長挨拶
- ・令和5年度 教務部実績報告
- ・令和6年度 教務部活動計画
- ・質疑応答
- ・今後の予定

4. 令和6年度 学校関係者評価委員会の評価まとめ

第1回評価委員会において、最初に校内視察を行い、学科授業と実習授業の状況を確認しました。その後学校側より、学園概況、教育内容、令和5年度の重点課題、重点目標の説明があり、本委員会における課題共有を図りました。同時に「令和5年度 自己点検・自己評価報告書」による評価結果の説明があり、質疑応答を通して意見交換を行いながら詳細に課題認識を深めました。

第1回委員会以降、各委員により「令和5年度 自己点検・自己評価報告書」を確認、評価し、重点目標に対する提言7件、指摘2件を含め全体で提言69件、指摘7件を行いました。（各基準の提言数と指摘数は、基準ごとに記載）

第2回委員会では、各委員の提言、指摘に対して学校側より回答説明があり、質疑応答及び意見交換の上で学校運営結果を把握し、学校関係者評価委員会として最終評価をまとめました。

令和5年度 自己点検・自己評価報告書 各基準の評価結果を以下に報告します。

基準1：教育理念・目的・育成人材像等（提言：4件 指摘：0件）

「建学の志」「学園の目的」「育成方針」を掲げ、教育理念は学園創設者の精神が受け継がれており、教職員周知はもとより、シラバスを含めたホームページ公開情報から外部へ広く周知されていると確認しました。今後も本教育理念を貫きながら、学生一人ひとりが各々の目標達成に向け日々の努力と笑顔あふれる学園生活で、人間関係をつくり、世界に歓迎される人間へと成長できるよう指導をお願いします。

基準2：学校運営（提言：5件 指摘：0件）

若者クルマ離れの昨今における学生確保と、整備士・技術者育成において、中期方針のもと、重点課題を明確かつ定量的に表現されており、時代に即した学校運営に取り組んでいることを確認しました。学園の価値を創出する教職員の育成への取り組みも評価できます。本田技研工業(株)と連携し、教育プログラムに見合った教職員の確保や能力開発など、高い教育水準の維持に向けた取り組みを、引き続きお願いします。

また、喫緊の課題発生時においても、タイムリーかつ確実に遂行できる様、プロジェクト運営で対応しており、柔軟な対応が成されています。

ホンダ学園だから学べる技術や人間力など、「選ばれる学園の確立」を強固なものにしてください。

基準3：教育活動（提言：7件 指摘：1件）

整備士育成カリキュラムに加え、企業ニーズに合わせたカリキュラムを課題とし、施策展開されており、同時に

技術のみに留まらず接遇マナー講座や安全運転講習など、キャリア教育にも力を入れていることを確認しました。また、教員の指導力向上に取り組み、現在の学生の特徴を良く捉えながら各種教育活動に対する分析と施策が実施されています。ホンダ学園の強みである体感学習は学生たちにとって満足度が高く、課外活動から学ぶことも多く、学生たちの苦しい中に笑顔がある光景は素晴らしいと感じました。

なお、昨今の企業ニーズとしてソフトウェア人材の募集がありますが、そのカリキュラムの必要性を学園でも認識し、本田技研や関連企業へ相談しながら授業展開を推進しています。引き続き 関連教員の拡充や必要な教員育成の推進をお願いします。

基準 4：教育成果（提言：7件 指摘：0件）

教育成果として、就職率 100%と、一級整備士資格 89.4%、二級整備士資格 100%の高い合格率を達成しています。一級整備士資格は全員合格にならなかったものの、その原因分析から弱点部分を明確にし、カリキュラム改善へ施策展開していくことを確認できました。

就職状況はとても良好で、企業 CS でも高い評価を得ています。学園の育成方針に沿った優秀で魅力的な人材育成が企業に評価されているものと理解します。今後も学生たちのチャレンジ意欲向上に努めて、希望する企業への就職内定に結び付けてください。

一方 1 年生の退学者は 昨年度も多い状況ですので、入試見極めや学業フォローは重要課題と感じます。様々な面から在学時のフォローを、学生一人ひとりに寄り添いながら活動をお願いします。

基準 5：学生支援（提言：10件 指摘：0件）

就職活動におけるフォロー体制が整備され、学生たちが自主的に各情報を取得しています。教職員の支援もあり就職率 100%を達成しています。今後は更に第一志望就職率が上がるよう推進しつつ、企業側の要望調査、および就職後の状況把握も実施しながら、就職志望のアドバイスに活かせるよう学生支援をお願いします。

健康管理、メンタルヘルスなど、支援体制が充実しており、カウンセリング室が設置され、女子学生・留学生に対するフォローも含め、安心して学べる環境が整っています。

課外活動は大変活発に行われており、大変魅力的です。また、授業内容はもとより、教育施設や部・同好会活動についても在校生の満足度調査を継続的に実施し、課題解決へ取り組んでいることも評価できます。

学生寮の CS 改善へ向けた取り組みは、計画的な推進をお願いします。

基準 6：教育環境（提言：6件 指摘：2件）

最新の設備等を活用した実践的な教育が行われています。EV 充電設備、塗装ブース、三次元測定機、モータ試験装置などの教育設備も充実化が行われており、新しい技術を学ぶ環境が計画的に導入されていることを確認しました。付帯施設（図書館、食堂、クラブハウス、体育館 等）も充実しており、申し分ありません。校内は清掃が行き届き、気持ちの良い環境で学習できています。教職員、学生の意識の高さを感じます。

課外活動ができる場所の一つとして体育館も充実しています。床面張替えなど老朽化に対応されていますが、地震などの対応もお願いします。

基準 7：学生募集と受け入れ（提言：10件 指摘：1件）

昨年度の入学者数は、一昨年度から増加したものの 目標の入学者確保には繋がりませんでした。しかしながら、学生募集活動の取り組み施策を明確に示し、近在の高校のみならず、南関東エリアへの拡大等、高校との絆づくり

活動も強化されています。また、学生に対する訴求では、Z世代に響く対策として、HPやSNSでの訴求強化も打ち出されおり、今年度の学生募集計画の必達を期待します。

一方で、せっかく入学していただいた学生が途中で退学してしまうことは、学園と学生双方にとって大変な損失となりますので、入学後の学園生活とのミスマッチが生じないよう、適切な入試の配慮をお願いします。

専門士・高度専門士の就労条件と学士などの就労条件差がなくなるよう、企業様へ働きかけをお願いします。

基準 8：財務（提言：4件 指摘：0件）

予算計画と執行状況は評議会や外部監査により確認され、財務諸表と事業計画がホームページで公表されていることから、透明性の高い仕組みとなっており 適切な管理状態と言えます。

少子化による学生減少は学校経営への影響が大きいため、引き続きの経費削減と入学者増加策の両面での取り組みをお願いします。

基準 9：法令等の遵守（提言：4件 指摘：1件）

学校教育法に基づいた専修学校設置基準を遵守し、文部科学省と国土交通省運輸局の厳正な指導の基に、学校運営が行われています。

コンプライアンス問題について重要視しており、問題はないことを確認しました。教育現場では、特に個人情報保護の対策強化も重要です。引き続き適切な措置を講じながら学校運営を進めてください。

学園では危険物取扱者資格の取得も推進されています。「安全な作業、安全な行動ができる人づくり」へ向けた教育は、適切な資格取得の指導も含め 確実な推進をお願いします。

基準 10：社会貢献（提言：5件 指摘：0件）

近隣地域を中心とした社会貢献活動が継続されています。清掃活動や交通安全活動に加え、子供たちを対象とした社会科見学、職場体験なども実施されており、学生たちの率先した社会貢献活動は学園イメージに好影響し、将来の学生確保にもつながる価値ある取り組みと感じます。地域と協力した活動や学園独自の社会貢献活動、更には個人で出来る献血活動など、幅広くボランティア活動が根付いています。多くの学生が率先的に活動へ参加し、当たり前のできる取り組みとして継続をお願いします。

5. 令和 6 年度 学校関係者評価委員会の総括

令和 6 年度の学校関係者評価委員会において、様々な意見や提言をもとに評価しました。また、教育課程編成委員会における意見も加味しながら、今年度の評価結果の要点を以下に明記します。

- 「建学の志」「学園の目的」「育成方針」を掲げ、教育理念は学園創設者の精神が受け継がれており、教職員周知はもとより、シラバスを含めたホームページ公開情報から外部へ広く周知されていると確認しました。
- 中期方針のもと、重点課題を明確かつ定量的に表現されており、時代に即した学校運営に取り組んでいることを確認しました。学園の価値を創出する教職員の育成への取り組みも評価できます。
- 整備士育成カリキュラムに加え、企業ニーズに合わせたカリキュラムを課題とし施策展開されており、同時に技術のみに留まらず接遇マナー講座や安全運転講習などキャリア教育にも力を入れていることを確認しました。また、課外活動から学ぶことも多く、学生たちの苦しい中に笑顔がある光景は素晴らしいと感じました。
- 教育成果として、就職率 100%と、一級整備士資格 89.4%、二級整備士資格 100%の高い合格率を達

成しています。就職状況はとても良好で、企業 CS でも高い評価を得ています。学園の育成方針に沿った優秀で魅力的な人材育成が、企業に評価されているものと理解します。

- 1年生の退学者は 昨年度も多い状況ですので、退学抑制のためには入試見極めや学業フォローは重要課題と感じます。様々な面から在学時のフォローを、学生一人ひとりに寄り添いながら活動をお願いします。
- 就職活動のフォロー体制が整備され、就職率 100%を達成しています。今後は第一志望就職率が上がるよう推進し、企業側の要望や就職後の状況把握も実施しながら、就職活動支援をお願いします。
- 健康管理、メンタルヘルスなど支援体制が充実しており、カウンセリング室が設置され、女子学生・留学生に対するフォローも含め、安心して学べる環境が整っています。
- EV 充電設備、塗装ブース、三次元測定機、モータ試験装置などの教育設備の充実化が行われており、新しい技術を学ぶ環境が計画的に導入されていることを確認しました。校内は清掃が行き届き、気持ちの良い環境で学習できています。教職員、学生の意識の高さを感じます。
- 昨年度の入学者数は目標未達成ですが、学生募集活動の取り組み施策を明確に示しながら、近在の高校のみならず、南関東エリアへの拡大等、高校との絆づくりの活動も強化されています。
- 予算計画と執行状況は評議会や外部監査により確認され、財務諸表と事業計画がホームページで公表されていることから、透明性の高い仕組みとなっており 適切な管理状態と言えます。
- コンプライアンス問題について重要視しており、問題はないことを確認しました。教育現場では、特に個人情報保護の対策強化も重要です。引き続き適切な措置を講じ学校運営を進めてください。
- 地域と協力した活動や学園独自の社会貢献活動、更には個人で出来る献血活動など、幅広くボランティア活動が根付いています。多くの学生が率先的に活動へ参加し、当たり前に行える取り組みとして継続をお願いします。

学園方針として「中期ビジョン」「中期方針」「中期重点課題」が整理されています。“人に喜ばれ、社会に貢献する人材を輩出する”というビジョンのもと、実績の確認、課題の整理が行われ、アクションプランが策定されており、適切で分かりやすく実効性のあるものと評価します。

以上